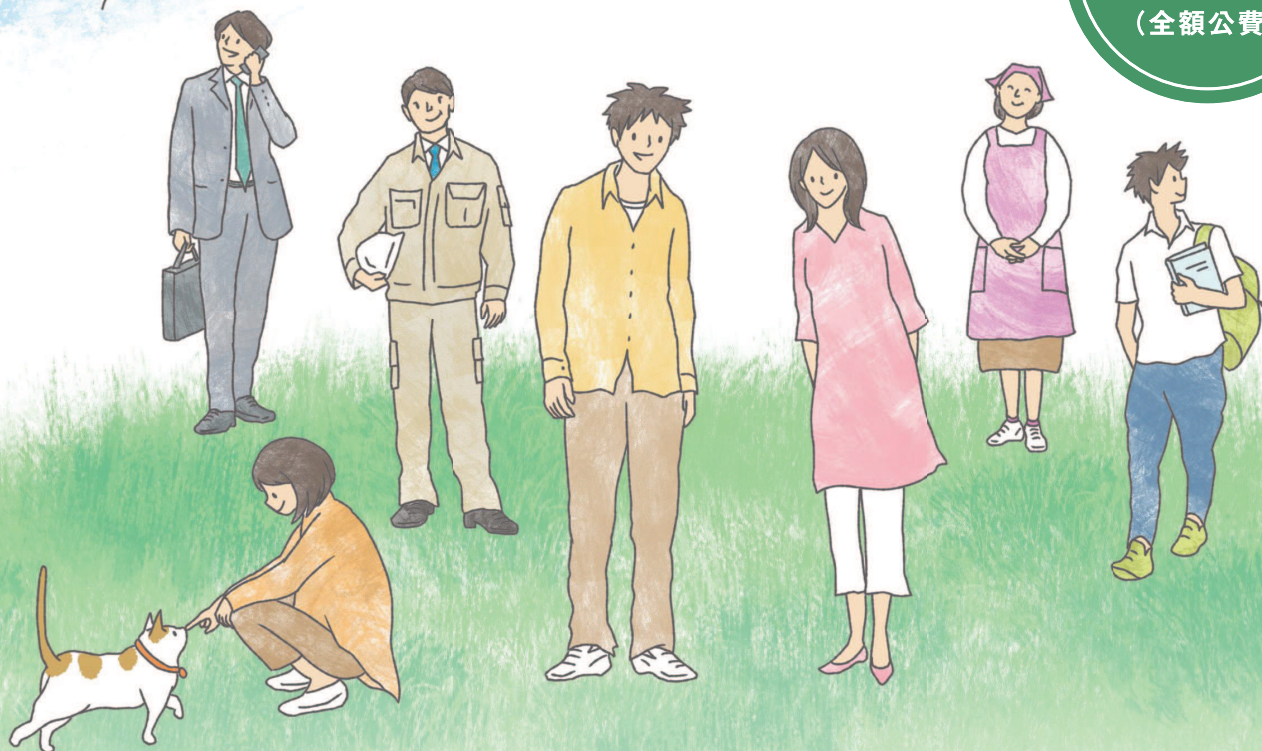


2021年9月14日

バキスゼブリア(アストラゼネカ社)について

新型コロナワクチン接種の お知らせ

接種費用
無料
(全額公費)



未来につながる新型コロナ対策が、ひとつ増えました。

新型コロナワクチンの有効性と安全性

新型コロナワクチンは、発症を予防し、
重症者や死亡者の発生をできる限り減らすことを目的としています。

◎接種の対象：

バキスゼブリアは原則として40歳以上の方が接種の対象です。(18歳以上の方も接種を受けることが可能な場合があります。詳しくは、3ページをご覧ください。)

◎ワクチンの効果：

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症の予防

ワクチンを受けた人の方が受けていない人よりも、新型コロナウイルス感染症(※1)を発症した人が少ないということがわかっています。

(臨床試験を通じて、約70%の発症予防効果が確認されています。)

(※1) 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)による感染症が発症すると、熱や咳など風邪によく似た症状がみられます。軽症のまま治癒する人も多い一方、症状が重くなると、呼吸困難などの肺炎の症状が悪化し、死に至る場合があります。



◎ワクチンの安全性：

接種後、数日以内に現れる可能性がある症状

発現割合	症 状
50%以上	接種部位の痛み、疲労、頭痛
10-50%	倦怠感、悪寒、関節痛、吐き気、接種部位の熱感・かゆみ
1-10%	発熱、嘔吐、接種部位の腫れ・発赤・硬結、四肢痛、無力症

バキスゼブリア(アストラゼネカ社)添付文書より改編

・これらの症状の大部分は、接種後数日以内に回復しています。

・1回目接種後の方が、2回目接種後よりも高い頻度で症状を認めます。

○接種後すぐにアナフィラキシーや血管迷走神経反射が起こる可能性があります。詳しくは6ページをご参照ください。

○ごくまれですが、ワクチン接種後に血小板減少症を伴う血栓症(※2)や毛細血管漏出症候群(※3)、ギラン・バレー症候群等の脱髄疾患(※4)を発症した例が、海外で報告されています。次のような症状があれば、すぐに医療機関を受診し、ワクチンを受けたことを伝えてください。

(※2) 持続する激しい頭痛、目のかすみ、息切れ、錯乱、けいれん、胸の痛み、足のむくみや痛み、持続する腹痛、接種部位以外の内出血(あざ)などの症状がみられます。

(※3) 手足のむくみ、低血圧などの症状がみられます。

(※4) 手足の力が入りにくい、しびれなどの症状がみられます。

バキスゼブリア(アストラゼネカ社)の 接種をお考えの方へ

◎メリットについて

このワクチンは、接種対象の方(18歳以上)に、年齢にかかわらず効果があります。

ただし、新型コロナウイルス感染症による死亡や重症化のリスクは、年齢が上がるほど高くなるため、ワクチン接種のメリットは、年齢が上がるほど大きくなります。

◎リスクについて

一方で、極めてまれですが、接種後に血小板減少症を伴う血栓症などの病気が報告されています。詳しくは、2ページの「ワクチンの安全性」(※2~※4)をご参照ください。

接種するメリットが、リスクを大きく上回る方に接種いただけるよう、
原則として40歳以上の方を接種の対象としています。

ただし、18歳以上40歳未満でも、次のような方は、このワクチンを接種できます。

- ・他の新型コロナワクチンの含有成分にアレルギーがある場合
- ・海外でこのワクチンの1回目の接種を受けた方が、国内で2回目の接種を受ける場合
- ・国が行う健康状況調査に参加するため、十分な説明を受けた上で投与を受ける場合



■ アストラゼネカ社のワクチン「バキスゼブリア」は、「ウイルスベクターワクチン」です。

新型コロナウイルスの表面のタンパクをつくることのできる設計図(DNA)を、風邪のウイルス(アデノウイルス)に組み込んで、ワクチンとして投与します。

これにより、人の体内で新型コロナウイルスの表面のタンパクがつくられ、これに対する免疫ができるものです。ワクチンとして投与する風邪のウイルス(アデノウイルス)は、人の体内で増殖しないような工夫がなされています。

ワクチンを受けるのに注意が必要な方など

詳しい情報は、厚生労働省ホームページ
「新型コロナワクチンQ&A『私は接種できますか?』」をご覧ください。



以下に当てはまる方は、ワクチンを受けることができない場合や、注意が必要な場合があります。接種に不安がある方は、かかりつけ医等にワクチンを受けて良いかどうかご相談ください。

受けることが できない方	○明らかな発熱がある方や、重い急性疾患にかかっている方 ○ワクチンの成分(※1)に対し、重度の過敏症を起こしたことがある方 ○新型コロナワクチン接種後に、血小板減少症を伴う静脈または動脈の血栓症を起こしたことがある方 ○毛細血管漏出症候群にかかったことがある方
注意が必要な方	○現在、何らかの病気で治療中の方 ・心臓病、腎臓病、肝臓病、血液疾患、免疫不全で治療中の方 ・血が止まりにくい病気の方や、血をサラサラにする薬(※2)を飲んでいる方 ○以下の様な症状が出たことがある方 ・薬や食品に対する重いアレルギー症状 ・けいれん(ひきつけ)

(※1) ポリソルベートなどが成分として含まれます。ポリソルベートは、既に承認されている複数のワクチンに含まれています。また、様々な医薬品に添加剤として含まれており、化粧品にも含まれていることがあります。その他の成分や、詳細については、厚生労働省ホームページをご参照ください。

(※2) このワクチンは、筋肉内に注射をします。そのため、抗凝固薬(ワーファリン®、ブラザキサ®、イグザレルト®、エリキュース®、リクシアナ®)を内服中の方は、接種後の出血に注意が必要です。

○妊娠中・授乳中・妊娠を計画している方もワクチンを接種することができます。新型コロナワクチンが妊娠、胎児、母乳、生殖器に悪影響を及ぼすという報告は現時点でありません。受けるかお悩みの方は、主治医にもご相談ください。

○新型コロナウイルスに感染したことのある方も、ワクチンを接種することができます。現時点では通常通り、2回接種します。いつから接種できるか不明な場合は、主治医にご確認ください。

ワクチン接種の申し込み方法など

■「接種券」を確認する

お住まいの市町村から「接種券」が届きますので、同封の案内をよく読んで、接種の準備を進めてください。



■ 医療機関/接種会場を探す

- ・お住まいの都道府県や市町村のホームページなどで、ワクチンを受けることができる医療機関や接種会場を確認しましょう。
- ・パキスゼブリア（アストラゼネカ社）を受けることができる会場は、コロナワクチンナビでも表示されます。

接種総合案内サイト
「コロナワクチンナビ」

サイトアドレス：
<https://v-sys.mhlw.go.jp>



■ 予約する

ワクチンを受けたい医療機関／市町村にお問い合わせください。ワクチンの種類は複数あります。あなたがどのワクチンを接種するかは、予約の際にご確認ください。

■ 当日の持ち物を準備する

- ・接種券（はがさず台紙ごとお持ちください）
- ・本人確認書類
（マイナンバーカード、運転免許証、健康保険証 等）



「接種券」(例)



マイナンバーカード 等

- ・医療機関や接種会場が探せない場合や、ご不明な点がある場合など、お住まいの市町村にお問い合わせをすることができます。
- ・「接種券」は市町村から送付されます。
- ・予約時に接種するワクチンの種類をご確認ください。

◎パキスゼブリア（アストラゼネカ社）のワクチン接種のときには、「新型コロナワクチン接種の予診票（アストラゼネカ用）」に記入して、予診を受けてください。

ワクチンを受ける際には、感染症予防の効果と副反応のリスクの双方について、正しい知識を持っていただいた上で、ご本人の意思に基づいて接種をご判断いただきますようお願いいたします。受ける方の同意なく、接種が行われることはありません。

職場や周りの方などに接種を強制したり、接種を受けていない人に対して差別的な対応をすることはあってはなりません。



ワクチンを受ける当日について

◎ワクチンを受ける前の注意点

接種前にご自宅で体温を測定し、明らかな発熱がある場合や体調が悪い場合などは、接種を控え、予約した市町村の窓口や医療機関にご連絡ください。

通常、上腕の三角筋に注射するため

肩を出しやすい服装でお越しください。



◎ワクチンを受けた後の注意点

接種会場にて

ワクチンを受けた後は、15分以上は
接種会場で座って様子をみてください(※)。

(※) 過去にアナフィラキシーを含む、重いアレルギー症状を起こしたことがある方や、採血等で気分が悪くなったり、失神等を起こしたことがある方は、30分ほどお待ちください。



接種後、すぐに現れる可能性のある症状について

○アナフィラキシー

- ・薬や食物が体に入ってから、短時間で起こることのあるアレルギー反応です。
- ・じんま疹などの皮膚症状、腹痛や嘔吐などの消化器症状、息苦しさなどの呼吸器症状が、急に起こります。血圧低下や意識レベルの低下(呼びかけに反応しない)を伴う場合をアナフィラキシーショックと呼びます。
- ・起こることはまれですが、接種後にもアナフィラキシーが起こっても、すぐに対応が可能なよう、ワクチンの接種会場や医療機関では、適切な医療体制を整備しています。

○血管迷走神経反射

- ・ワクチン接種に対する緊張や、強い痛みをきっかけに、立ちくらみがしたり、血の気が引いて時に気を失うことがあります。
- ・誰にでも起こる可能性がある体の反応で、通常、横になって休めば自然に回復します。
- ・倒れてケガをしないように、背もたれのある椅子に座って様子をみてください。

接種後に現れる可能性がある症状については、2ページをご参照ください。

ワクチンを受けた後について

ワクチンは通常、同じワクチンを2回接種します。

標準の接種間隔

通常、4～12週間の間隔

- 最大の効果を得るためには、8週間の間隔を空けて接種することが望ましいとされています。
- 標準の接種間隔を超えても、2回目の接種を受けることができますので、なるべく早く2回目を受けましょう。
- 2回目の予約方法については、1回目に受けた医療機関・接種会場や自治体の案内をご確認ください。
- 接種後に現れた症状の種類によっては、2回目の接種は控えた方がよいこともあります。接種後に気になる症状が現れた方は、2回目を受けるかどうかも含めて、ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医にご相談ください。

ワクチンを受けた後も

マスクの着用など、感染予防対策の継続をお願いします。

ワクチンを受けた方は、新型コロナウイルス感染症の発症を予防できると期待されていますが、他の方への感染をどの程度予防できるかはまだ十分には分かっていません。また、ワクチン接種が徐々に進んでいく段階では、すぐに多くの方が予防接種を受けられるわけではなく、ワクチンを受けた方も受けていない方も、共に社会生活を営んでいくことになります。

このため、皆さまに感染予防対策を継続していただくようお願いします。

具体例）



密集場所



密接場面



密閉空間

「3つの密（密集・密接・密閉）」の
回避



マスクの
着用



石けんによる
手洗い



手指消毒用
アルコールによる
消毒の励行

ご相談先など

◎新型コロナワクチンに関する相談先

ワクチン接種後に 体に異常があるとき	➡ ワクチンを受けた医療機関やかかりつけ医、 市町村や都道府県の窓口
ワクチン接種全般に 関するお問い合わせ	➡ 市町村の窓口

◎予防接種健康被害救済制度について

予防接種では健康被害（病気になったり障害が残ったりすること）が起こることがあります。極めてまれではあるものの、なくすことはできないことから、救済制度が設けられています。

新型コロナワクチンの予防接種によって健康被害が生じた場合にも、予防接種法に基づく救済（医療費・障害年金の給付など）が受けられます。

申請に必要な手続きなどについては、住民票がある市町村にご相談ください。

新型コロナワクチンに便乗した詐欺にご注意ください！

新型コロナウイルス感染症に係るワクチン接種のために必要としたり、金銭や個人情報をだましとろうとする電話に関する相談が消費生活センターへ寄せられています。

市町村等が、ワクチン接種のために
金銭や個人情報を電話・メールで求め
ることはありません。

困ったときは一人で悩まず、消費者ホットライン188（局番なし）にご相談ください。



新型コロナワクチンの詳しい情報については、厚生労働省のホームページをご覧ください。

厚労 コロナ ワクチン

検索

ホームページをご覧になれない場合は、お住まいの市町村等にご相談ください。

